

「わが村は美しく」－北海道運動

第11回コンクール「帯広ブロック」受賞団体

北海道開発局では、地域の魅力と活力を高めるため、住民主体の活動を支援することを目的に、「わが村は美しく－北海道」運動を推進しています。

本運動の一環として、第11回のコンクール（帯広ブロック）を開催し、十勝管内より10団体の応募があり、下記の団体が優秀賞・奨励賞を受賞しました。

北海道帯広農業高等学校食品科学科 地域資源活用分会【帯広市】



JAXAが国際宇宙ステーションに供給する「宇宙日本食」(クリームシチュー)を全て十勝産原材料にこだわっての開発に取り組んでいる。

宇宙食として品質が求められるためJAXAからの助言や、宇宙食の実績がある地元企業との連携や地域の農産物を使用することで十勝農業の活性化・PRを目指しています。

ピロロツーリズム推進協議会【広尾町】



地域の営農者らが連携して自然資源を活用したツアーやイベントの開催、農業の体験や農泊などを通して、地域産業の活性化・魅力の発信に取り組んでいる。

地域の食材を使った特産品の開発や酪農・漁業体験等、実際に地域の景色に触れることを通して、地域の一次産業のPRに繋がっています。

北海道士幌高等学校 乳加工専攻班【士幌町】



地域企業と協力し、地元の乳製品、大豆を使用したティラミスの開発を行っている。

昨今の社会情勢からコーヒーやカカオが高騰しているため、地場産の豆に着目して商品開発に取り組んでいる。地域の食材を使用し、地域の企業とも連携して、農業・地域振興に貢献しています。

北海道本別高等学校 豆乳クレンジングジェル班【本別町】



食品以外に豆の町本別をアピールすることができないかとの発想から、町内の大豆農家や豆腐づくりをしている「豆ではりきる母さんの会」等の支援を受けて「豆乳クレンジングジェル」を開発。

今後、商品化や食品以外の豆の新たなPRについて地域と連携して取り組んでいます。

株式会社 地恵贈【池田町】



自社農場で生産する馬鈴薯の加工・販売を手がけており、学校給食として提供され、さらに多くの外食産業との提携など、地産地消を通して地域振興にも寄与している。

また、小学校を対象に田植えから収穫までの学習体験も行い、食育活動に取り組むなど、幅広い活動を通して地域の活性化にも貢献しています。

第11回コンクール「帯広ブロック」参加団体

第11回のコンクール（帯広ブロック）に参加して頂いた団体の活動状況をご紹介します。
（順不同）

合同会社 ノーサム【帯広市】



本別産玉ねぎの外皮と阿寒湖温泉の温泉水で洋服を染色するブランドを立ち上げた。これまで廃棄されていた玉ねぎやアオダモ材の外皮（本別産）と阿寒の温泉水による染色。

それを帯広で加工するというにより、十勝地域の観光業・農業の活性化や発展とともに、アイヌ文化の魅力を広く伝えることを目指しています。

北海道士幌高等学校 肉加工専攻班【士幌町】



士幌町内で駆除されたエゾシカは食肉処理などは行われておらず、害獣として取り扱われているのが現状を踏まえ、企業と協力して「士高（しこう）のエゾシカレー」を開発。

帯広市内の農業イベントや士幌町道の駅での販売を始め道外での物産大会に参加するなど十勝管内のシカ肉の普及に貢献しています。

北海道士幌高等学校 畑作専攻班【士幌町】



有機農業の普及を目標に、校内の農地に有機栽培モデル農場を作り、有機的管理が馬鈴薯の収量に及ぼす影響を調査を実施。

地域農業者への報告会や有機農業者との情報交換会等の場も設け有機農業の普及に貢献しています。

北海道本別高等学校 豆班【本別町】



本別町の特産品である「キレイ豆」を使用し、町内の洋菓子店や地域おこし協力隊と連携して商品化に向けた取り組みを行っている。

また、地域で生産した小麦粉や十勝産蜂蜜を使用した「本校フィナンシェ」は既に商品化されており、ふるさと納税の返礼品となっているなど地域の活性化に貢献しています。

北海道池田高等学校【池田町】



十勝（池田町産）の間伐等で未利用であった白樺を使った商品づくりを行い、池高BIRCHとしてブランド化。

商品作りは池田町や地域の企業と連携して進められている。加えて、町有林にて林業の演習体験を継続的に実施するなど、林業の活性化や地域振興に取り組んでいます。

わが村の活動を多くの人に伝える取組

●WEB・メールマガジン情報発信
→活動団体の最新情報を広く発信



北海道開発局
わが村特設サイト



わが村は美しく-北海道

●JR北海道の車内詩掲載（JR北海道と連携）
→「The JR Hokkaido」への掲載



●Facebook
→活動団体の最新情報を広く発信

